

学校だより



京都府立城陽支援学校

平成26年度第1号
平成26年4月22日発行
校長 久貝 佳弘
tel0774-53-7100
fax0774-53-4044

春爛漫、桜満開の中での入学式を終え、新学期が始まりました。4月は、教職員の異動の時期ですが、この春は以下のような先生方とお別れし、新たな先生方を迎えました。入学式では、新入生21名を迎え、全校生70名で新年度をスタートしました。

本校は、来年創立30周年を迎えます。この期を節目に、新しい時代に対応したこれから10年間の学校運営の基本として「城陽支援ならではの教育」を進めていく指針を創り、教育活動を推進して参ります。

そのために、これまでの教育活動を総括し、本校の特色である特別支援教育の手法を生かして、児童生徒の意欲的な学びの姿勢を引き出し、「力いっぱい生きる」「学びながら病気を治す」「自立と社会参加を目指す」児童生徒の育成をめざして参ります。裏面に平成26年度の目指す児童生徒像・学校経営計画を掲載しておりますので、御覧ください。

本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

平成26年度の「教職員人事異動」を紹介します。

退職・転出

(転出先)

梶谷 隆	事務長	退職
岡 貞充	総括主事	京都府立豊学校
畑 桂子	重心教育部教諭	京都府立宇治支援学校
田渕小百合	病弱教育部教諭	京都府立宇治支援学校
嶋 若菜	病弱教育部教諭	城陽市立青谷小学校
津村 良枝	通学高等部教諭	京都府立八幡支援学校
新田 幸世	通学高等部教諭	京都府立宇治支援学校
四方 沙知	通学高等部教諭	京都府立南山城支援学校
長沢 千秋	養護教諭	京都府立桃山高等学校
田中 敏	事務主任	退職
大野 智美	主事	退職



新たに転入

杉本 幸夫	事務長
笹山 健次	病弱教育部総括主事
田渕 泰史	通学高等部総括主事
堅本 恭寛	病弱教育部教諭
中坊 真澄	通学高等部教諭
上田 玲子	通学高等部教諭
北尾 もも	病弱教育部教諭
澤田 千夏	病弱教育部教諭
松浦 梢	通学高等部教諭
山田 和孝	人材育成部教諭
松本 愛	養護教諭
太島 良一	事務主任

平成 26 年度 目指す児童生徒像

【重心教育部】

思いを表現し 仲間とともに 力いっぱい生きる児童生徒

【病弱教育部】

豊かな心を持ち 人との関わりを広げ 自信を持って意欲的に活動する児童生徒

【通学高等部】

たくましく豊かな心を持ち 働く力を育てながら 自立を目指す生徒

平成26年度 京都府立城陽支援学校 学校経営計画

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
1 いのちと人権を大切にしたい、安心で安全な教育の推進 2 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育の推進 3 出口へのスムーズな接続 4 医療・労働・福祉等と連携した、地域や保護者から信頼される学校づくりの推進 5 学校組織・運営の改善	1 成果 (1) 新規実習・就職先含む進路実現 (2) ポスターセッションによる研修・実践交流 (3) 通級指導教室の開設等の地域支援・連携の拡大と、公開授業等の実施 2 課題 (1) 通学高等部の職業学科改編の取組の推進 (2) 情報処理・発信システムの構築と活用 (3) 病院・病棟との共通理解・連携の強化	1 南京都病院との連携による指導体制の充実 2 職業学科への改編を見通した取組の推進 3 地域支援の拡充(通級指導の推進・関係機関との連携) 4 学校公開と情報発信の促進 5 指導計画から評価への指導システムの構築 6 人材の育成に向けた教職員研修の充実

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
1 組織・運営	(1) 職業学科への改編に向けた取組の推進	・職業学科コースの調査及び教育課程研究の推進 ・職業学科コースを見通した新たな実習先、就労先の計画的な開拓と、進路指導の充実 ・3年間の系統性をもった学習内容の充実 ・入学相談・入学選考システムの見直し		
	(2) 学校公開の推進による本校理解の促進と専門性の向上	・学校公開の実施と、他者評価の還元 ・土日参観の実施による保護者の理解協力の促進 ・校務分掌等によるポスターセッションの実施 ・校内研修の計画的な実施と充実		
	(3) 情報処理・発信システムの構築と活用	・学校だより、学校ホームページによる情報発信 ・校内LANの再構築と活用		
	(4) 病院・病棟との連携による指導体制の充実	・重度化に応じた医療的ケアや登校計画の実施 ・病院との共通理解・連携による指導体制の改善		
	(5) 避難・緊急連絡システムの構築と学校安全計画等の周知と取組	・保護者との緊急時連絡システムの構築 ・南京都病院と連携した避難システムの検討 ・学校安全計画・保健計画による取組の推進		
2 地域支援	(1) 通級指導教室の活用や小中高校・関係機関との連携	・通級指導教室の活用推進と実践報告・発信 ・小中学校特別支援学級への支援と情報提供		
	(2) 不登校に関する相談や研修支援の拡充	・小中学校の支援体制づくりを目指した支援と、関係機関との連携の充実 ・小中高等学校の生徒指導・教育相談担当との連携の推進 ・小中高等学校のニーズに応じた研修支援の充実 ・次期コーディネーターの育成につなぐ取組		
	(3) 地域との交流による連携	・新たな交流先の開拓と、市町村機関との連携		
3 教育課程 (学習指導)	(1) 指導計画から評価へのシステムの構築	・授業評価システムの構築（重） ・転入から転出に至る指導システムの再構築（病） ・個別の指導計画と通知票の連動の検討（通）		
	(2) 教育部の教育課題に応じた実践研究の推進と発信	・支援機器の活用 実践研究報告（重） ・不登校児童生徒への関わり 実践研究報告（病） ・職業に関わる指導のあり方 実践研究報告（通）		
	(3) 児童生徒の障害や課題に応じた教育課程の検討	・重度化に対応した教育課程や指導の検討（重） ・心理的課題対応への特別な教育課程の検討（病） ・新たな職業教育に向けての教育課程の検討（通）		
	(4) 教育相談機能の充実	・児童生徒の思いを受け止める教育相談力の向上 ・教育部における教育相談体制の構築（病・通）		